

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	栃木県	市町村名	おやまし 小山市	地区名	ままだえきしゅうへんちく 間々田駅周辺地区	面積	210.0 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

目標

- 目標1 駅舎のエレベータ設置にあわせ、子供やお年寄り等にとっての移動環境に係る障害を取り除き、安全な生活環境の形成を図る。
- 目標2 地域資源の活用や施設の高質化整備により、快適でうるおいのある生活環境の実現を図る。
- 目標3 日常の防犯性の向上や災害など緊急時にも対応できるまちづくりにより、安心できる生活環境の形成を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 間々田地区は、小山市の人口15万5千人(平成12年国勢調査)の約17%、約2万6千人が居住し、近年も宅地開発や区画整理事業の進捗により人口の伸びをみせている地区である。
- 地区は、国道4号やJR宇都宮線にそって南北に細長く市街地が形成されている。
- 地区内には、JR間々田駅や間々田商店街があり、小山市の南の玄関口、副心として位置づけられている。
- 間々田駅を中心として昭和32年から土地区画整理事業に取り組んできた。この結果現在までに約210haの市街地が土地区画整理事業により整備されている。
- 昭和54年には間々田駅が橋上化され、駅の東西をつなぐ自由通路が整備された。
- 平成16年度に策定された小山市都市計画マスタープランでは、間々田駅周辺地区の整備方針として「日常生活の利便性を支える生活拠点としての商業施設や生活利便施設等の立地誘導」が位置づけられている。
- 同じく、平成16年度に策定された小山市交通バリアフリー基本構想に基づき、駅のバリアフリー化として、平成17年度中の完成を目指してエレベーターの設置事業が進行している。
- 都市再生整備計画の作成にあたり、若い世代のまちづくりに対する意識を把握するため、地域に生活基盤を持ち、地域社会に関心を持ち始める中学生を対象にアンケート調査を行った。
- また、住民の日常生活上の課題を把握するため、地区内の自治会長による検討会をベースにした推進協議会を設置し、意見を聞いた。
- 現在の間々田公民館は、旧間々田町の中心にあり、間々田地区のまちづくりに貢献してきた。
- 当地区の地域活動は、子供から高齢者までの世代を超えた活気あるまちづくりに貢献したことで、平成15年に文部科学大臣の表彰を受けた。豊かな自然にも恵まれ、また、市民活動の活発な地区のまちづくりを推進するため、間々田市民交流センター(仮称)整備事業の促進とともに、関連施設の整備・地域コミュニティ再生のためのネットワーク構築など、総合的な対策を着実に進めることが必要な地区である。
- 新センター施設の整備計画を住民と共働で進めている。
- 間々田地区の小山市博物館及び乙女不動原瓦窯跡は市内における歴史文化拠点の一つとして位置づけられており、また、地区内には、城山公園と博物館を結ぶ旧鎌倉街道「歴史の道」や旧日光街道沿いに歴史・文化遺産が数多く存在している。

課題

- JR間々田駅周辺は、基盤整備後の老朽化が進んでいることや整備水準が低いことから、エレベーター設置を契機としたバリアフリー化や交通機能の強化が求められている。また、うるおいや美観にあふれた空間形成を図り、近隣商業機能や交流活動を誘発する必要がある。
- 南北に走る鉄道で市街地が分断されていることから、踏切りの安全性向上が永年の課題となっている。
- 近年の土地価格はいまだ下降傾向にあり、土地区画整理事業における権利者や行政の負担が大きくなり、地元合意形成を図ることが難しい環境となっているため、これ以外の手法も含めた住民のまちづくりに関する機運を醸成し、断片化し、狭隘な幹線道路のネットワーク再整備や防災面で不安を抱える小規模住宅地の安全性向上を図る必要がある。
- 駅東側の平地林が放置されてきた結果、ゴミの不法投棄や歩行者の防犯対策が必要となってきた。地区固有の自然資源を活用した整備計画を策定し、地区のマイナスイメージ解消を図る必要がある。
- 道路の老朽化が進み段差やひび割れが生じているため、移動環境や住環境に悪影響を与えている。
- 現在の間々田公民館は、築後35年が経過し老朽化が進むとともに、規模が小さいため、活発な地域活動や住民のニーズに応えることができなくなった。
- 住民自らが主体となる「地域活動の拠点」かつ「地域文化創造の場」の交流の核となる施設が必要となっている。
- 間々田地区には豊富な歴史・文化遺産が存在するものの、それらが十分に活用されているとはいえず、観光資源、交流のための地域資源としての活用を検討する必要がある。

将来ビジョン(中長期)

(小山市都市計画マスタープラン)

- 平成16年度に策定された小山市都市計画マスタープランでは、間々田駅周辺地区の整備方針として「日常生活の利便性を支える生活拠点としての商業施設や生活利便施設等の立地誘導」が位置づけられている。
- また、地域のまちづくりの整備目標として、「間々田駅周辺の機能充実と利便性の向上」、「市街地における良好で住みよい生活環境の形成・維持」、「自然資源や農業環境と調和した良好な集落環境の形成」、「地域生活の利便性を高める移動交通環境の向上」、「自然景観や歴史的資産の保全・活用と公共公益施設等の充実」が掲げられている。
- (小山市総合計画)
- 小山市総合計画・基本計画の分野別計画の、豊かなこころと文化を育む「ひと」づくり、豊かな人と地域を創る学習環境、社会教育の公民館の整備充実として、間々田地区の公民館の拠点となる間々田市民交流センター(仮称)の整備充実を図ることとしている。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度		
通行者のバリア等の改善率	%	バリアフリー構想の特定経路等の延長に対するバリアフリー化された路線の延長の割合	駅周辺のバリアフリー化及び安全な生活環境の形成を図る。	18	平成17年度	32	平成22年度
商店街の通行者人数	人/日	商店街を行き来する通行者の人数	通行者増により商店街の活性化を図る。	281	平成17年度	300	平成22年度
まちづくりに関する活動団体数	団体	間々田駅周辺地区におけるまちづくりに関する活動を行っている団体数	地区内における整備構想実現化に向けての機運を高めるため、地元勉強会等の組織をつくる。	2	平成17年度	4	平成22年度
センター施設自主講座数	講座/年	交流センターにおける年間講座開催数	施設の充実と利便性の確保により利用者の増加を図る。	1,620	平成17年度	2,000	平成22年度
センター施設を活動の場とした団体数	団体	各施設を活動の拠点とした市民団体数	サークルの増加や市民活動の場の提供などの効果。	18	平成17年度	20	平成22年度
車屋美術館主催の研修会、講座の開催	回/年	車屋美術館で自主企画した研修会、講座等の開催数	地域資源を活用することによる地域住民同士、あるいは来訪者と地域住民の交流促進	0	平成17年度	10	平成22年度